

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770400309		
法人名	医療法人 一灯の会		
事業所名	グループホーム月桃		
所在地	沖縄県沖縄市知花5丁目24番18号		
自己評価作成日	平成30年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijyosyoCd=4770400309-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成30年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム月桃は、建物周辺に木々が生い茂り季節の花々を眺めたりできる緑豊かな環境にあり、利用者の心を癒したり庭に出て自然と触れ合う事ができる。利用者に対して「その人らしく暮らせる」環境づくりに努め、認知症の改善がなされるように努めている。向かいには母体病院があり、医療・災害対策等が構築されており利用者が安心して暮らす事ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人が運営し、家庭的な環境のもと、地域や関係機関との連携、安心と尊厳ある生活、その人らしい豊かな生活の支援など、7項目の理念による支援内容としている。日々の生活の中では、状況に応じて一部介助や見守り支援などで利用者の能力を引き出せる工夫をしている。利用者が地域で安心して過ごせるよう、本人のニーズに沿った支援の実施を職員間で共有している民家などが少ない環境の中で、2か所の自治会長と連携を図り、広報誌で情報を得るなどし、新年会や敬老会に参加している。地域の施設や法人病院の夏祭りに参加したり、近隣の売店や市場におやつなどの食材を買いに出かけるなどして、地域との交流を図るようにしている。園庭には東屋が設置され、利用者の散歩コースや休憩場になっている。居室は広く、ベッドやタンス、洗面台が設置されている。タンスに私物が収納され、居室は整理されている。テレビを持ち込んだり、孫の写真や自分で書いた絵を飾るなど、利用者や家族の好みの部屋づくりを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念に基づき職員全員が共有した上で、入居者が家庭的な雰囲気の中で安全に過ごせるよう心がけている。家族や地域の一員として関わられる支援を目指している。	理念については、家庭的な環境のもと、地域や関係機関と連携、安心と尊厳ある生活、その人らしい豊かな生活の支援など、7項目の内容となっている。日々の生活の中では、状況に応じて一部介助や見守り支援などで利用者の能力を引き出せる工夫をしている。利用者が地域で安心して過ごせるよう、本人のニーズに沿った支援の実施を職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の開催する行事(夏祭り等)に利用者や職員で参加したり、近隣のスーパー等で買い物をし交流を図る。	地域とのつきあいについては、民家などが少ない環境ではあるが、2か所の自治会長と連携を図り、広報誌で情報を得るなどし、新年会や敬老会に参加している。地域の施設や法人病院の夏祭りに参加したり、近隣の売店や市場におやつなどの食材を買いに出かけるなどして、交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験の学生や実習生見学を受け入れたり役所の開催する催し物に参加し、認知症の理解を深めるための活動を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し利用活動状況の報告、サービス提供を議題に取り入れ委員会からの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議については、2か月に1回定期的に行われ、家族や行政直営の地域包括支援センター職員が毎回参加し、地域代表として自治会長が参加している。会議は、利用者状況や事故報告などがなされ、今年度からは身体拘束等適正化に関する意見などの記録も確認できた。運営推進会議の構成委員である利用者や知見者の参加が確認できなかった。	運営推進会議の構成委員として、知見者及び利用者も含まれていることから参加が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や自治会長が参加し連携・情報交換を行い助言を頂きながら協力関係を築いている。	市との連携については、運営推進会議の中で情報交換の他、2か月に1回の奇数月での管理者会議で行政参加の際に交流を図っている。行政直営の地域包括支援センター職員の看護師より、ケアの仕方などを教えてもらい、利用者の生活に活かすことができた事例などもあり、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、母体病院と連携し、職員と共に身体拘束をしないケアに努めている。法人の開催する勉強会に参加しケア向上に取り組んでいる。	拘束をしないケアについては、身体拘束等の適正化のための指針に基づいて、職員間で話し合い、運営推進委員会議の場で利用者状況を伝え、委員からアドバイスや助言を得ている。職員は定期的に勉強会を実施し、身体拘束のないケアに努めている。法人の身体拘束管理委員会や行動最小化委員会に、管理者を初め精神科医や看護師、精神保健福祉士などが参加し、利用者状況の報告及び相談を行う機会としている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	理念にもあげ職員全員で共有し、虐待防止の徹底を図り、虐待のない介護ケアに努めている。	虐待の防止については、「いかなる理由においても、差別・暴力・虐待などの身体的、精神的拘束を行いません」と理念に謳われており、虐待のない支援に努めている。職員が少ない時間帯など、日々のケアの中では、「今はできません」と言ってしまうような場合においても、利用者の要求を受け止める支援を心がけており、言葉による制止も行わないよう取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用する対象者がいない為、十分な知識を持っていないが今後、必要な状況にあった場合は関係機関に相談し活用したい。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項の内容を説明し家族から疑問があればわかりやすく説明し、理解・納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体病院の受診日や家族面会、運営推進会議等で意見・要望を聞いたり入居者から表現される要望は、日々の関わりの中から思いを汲み取り支援に反映させている。また、意見箱を設置し意見を聞いている。	利用者等の意見については、「お家へ帰りたい、ポーポー食べたい」などに対し、ドライブがてら自宅付近に出向くことで納得してもらったり、おやつにポーポーを提供するなど、希望に沿うようにしている。家族からの意見は少ない状況であるが、病院受診や面会時、運営推進会議などに意見を聞くようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見を聞く場を設けたり、スタッフミーティング等で出された意見・提案を受けて業務改善を行っている。	職員の意見については、ミーティングや申し送りはもとより、日ごろから管理者は職員が意見を言いやすいよう配慮している。8月の暑い時期、職員から、「浴室に扇風機がほしい、全介助の利用者支援を二人体制にしてほしい」などの意向をもとに運営に反映し対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、職員個々の勤務状況、活動状況を把握し個々のフィードバックを行い職員がやりがいと向上心を持つような環境づくりに努めている。	就業環境については、法人はグループホームの特性に配慮し人事異動はしない方針である。管理者は職員がやりがいを持って働けるよう工夫し、風通しのよい職場環境を意識している。職員の様子を把握し、元気がない場合などは声かけし話を聞くようにしている。定期的な研修や健康診断も実施されている。現在、職員数に余裕がない状況であり、年休取得が難しいことから、職員確保が期待される。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に資格取得を勧めたり、母体病院の勉強会に参加して貰い法人内外への研修も促しケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会主催の研修会や沖縄市グループホーム管理者会の集まりに参加・交流をしネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴、背景より全体像を把握したうえで訴えのある時は受容的対応を心掛け、本人のニーズを見つけだし、安心して過ごせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント作成時に家族より困っている事、要望等について一つ一つ確認してより良いサービス提供に組み、安心して頂ける関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じた支援を行い自施設で対応困難な場合は、家族本人の理解を得て、他サービスの情報提供を行い、あくまでも家族や本人の自己決定権に基づいた支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に家庭的な雰囲気作りを意識し、会話を重視しお互い支え合う関係での生活を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は常に連携を密にし情報交換を行い、家族の意向を汲み取りながら時には家族からの悩み事の相談や体調を気遣い共に支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族より生活歴や趣味等の情報を取り入れ、スタッフ全員で情報を共有し会話したり、馴染の場所へドライブをする外出支援を行っている。	馴染みの人や場については、畑の好きな利用者や農作業に興味のある利用者と一緒に、ドライブがてら地域の畑に出かけ、そこで作業している方々と会話するなど、交流している。利用者の教え子数名が毎年定期的に事業所を訪れ、利用者や交流するなど、人や場との関係が途切れないよう、支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常生活の過ごし方や他利用者との関係を把握して、趣味の合う同士の活動を取り入れ、互いが交流できる様支援してしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も行事等への招待をしたり母体病院の外来受診時に本人の経過状況を御家族から聞き情報の交換を行っている。相談があれば必要な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わり、会話の中で本人の思いや暮らしへの意向を聞きだし希望、意向の把握に務め思いが表出できない方は、観察記録を通して対応策を話し合い、思いを引き出す支援を心掛けている。	思いや意向については、さりげない会話をしながら本人の思いを引き出せるよう努めており、本人の意向などはアセスメントに記載されている。日々の支援では、これまでの生活についてや、これからしたいことなど、地域の写真などを見てもらいながら、聞き取る工夫をしている。本人から意向を聞き取れない場合などは、今後の支援への意向については、家族から聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に作成したアセスメント表や家族・本人から得た情報をもとにこれまでの暮らし方の把握に務め、本人に合ったサービス提供を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル表で日々の健康状態を把握して日常生活の関わりの中で、個々の生活状態を見極め個々に合った生活支援を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書は、アセスメントや家族からの情報を基に作成し、意向を反映させ定期的な更新時期は自立支援に向けた介護計画の立案を行っている。	介護計画等については、本人の意向である「散歩したい」に、庭の散歩や活動への参加などを支援したり、新聞読みや洗濯物たたみ、プランターの水やりなどの支援内容がある。介護記録様式には、利用者のケア目標が記載され、いつでも確認しながら日々の記録が記入できるようになっている。モニタリングが定期的実施されているが、担当者会議に本人や家族の参加は確認できなかった。長期目標及び短期目標の期間がなく、介護保険の有効期間となっている。	介護計画の長期目標及び短期目標の期間の設定と担当者会議への利用者本人及び家族等の参加が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や健康状態を個別の介護記録用紙や介護管理日誌に記録し、毎日の申し送りやミーティングにて情報を共有ながら問題点をあげ、介護計画書の見直しをし日々の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、早めの対応を心掛け母体病院の協力も得ながら本人の要望に応えるようなサービス支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>医療面においては母体病院との連携、地域自治会との連携、ボランティアの受け入れ等により利用者が安全で且つ安心して潤いのある暮らしができるよう支援している。</p>		
30	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院の医師が主治医となっており、定期的な外来受診にて診察を受けており、また緊急時はまず母体病院の診察を受け、協力病院へ搬送する体制で支援している。</p>	<p>内科等受診はこれまでのかかりつけ医を継続受診し、家族が通院支援し、必要に応じ職員が同伴している。受診は情報提供書の持参や口頭で報告を受けている。認知症については、母体病院が主治医となっており、月1回看護師が訪問し、利用者の状況確認を行っている。健診で心電図や血液検査が行われている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院の訪問看護により一人一人の状態報告を行ない、特に体調変化のある利用者を優先的に適切な看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、常に情報の交換を行い容態の経過状況の把握や相談に務め、退院後は家族や利用者の要望により再入居の相談も受け入れる支援を行っている。</p>		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての方針は立てていないが重度化した場合の対応として家族、本人の意向を踏まえ終末期に向け十分話し合い、医療の整った病院への転院等の方針を立てていく事を検討している。	入居時に看護師の常駐がなく、看取りはしない方向で利用者や家族に説明し理解を得ている。重度化した場合は、医療機関への転院等を行うことで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院の計画している救急法の勉強会や実施訓練に参加している。また、事故発生時の方法を常に職員と共有している。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院の協力の元、定期的に消防訓練を実施。スプリンクラーも設置しており避難経路への誘導表示灯及び消火器の設置、火災時における母体病院及び消防署への連携システムや協力体制が整っている。合同と独自の消防訓練を実施している。	年2回昼夜を想定した消防訓練を行っている。母体病院と合同で夜間を想定した避難訓練を行い、病院職員が応援している。実施報告書は母体病院で作成し、保管しているが、当事業所でも実施報告書の保管に期待したい。台風時に避難勧告が出た場合は、母体病院が避難先となっている。備蓄品として、レトルト食品等を母体病院がまとめて備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げている「安心と尊厳のある生活」「利用者の残存能力」を職員で共有し実施している。巡視時は居室の観察を小窓から行ったり、プライバシーを損ねない言葉かけに気をつけ対応している。	利用者の残存能力を活かし、本人のやりたいことをさせるよう支援している。居室内のドアに鍵をかける利用者には、人格を尊重し対応している。守秘義務やプライバシーの確保について職員に周知し、個人情報保護方針や利用目的が掲示されている。防犯カメラを入口側に設置し、不法侵入者の発見や母体病院でも夜間時の監視が行われている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人にあった言葉かけを行い、その中から思いや希望を見出し、話しやすい雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の状態を見極めた上で、一人一人のペースに合わせたケアを心掛け、希望に添える生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出(ドライブ、家族との外出)に利用者自身に衣服を選択してもらい、又家族により理・美容室での理髪支援も行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食卓に座り、家庭的な雰囲気の中で一緒に会話をしながら食べたり、出来る利用者と片づけを行う。また、おやつ作りを一緒に楽しみながら味わっている。	3食とも母体病院からの配食で、盛付は事業所内で行っている。おやつは事業所で週2回利用者と一緒にヒラヤチーやポーポーを作っている。職員の見守りで自力で食事をとり、完食する利用者が多い。職員も同じ食事を一緒に食べている。家族が持ってきた花を生けたり、食器も浅い皿、軽めのお椀、ワンプレートを好む利用者にはワンプレートを使用し、食事を楽しむ支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは、母体病院の栄養士によって作成されていて職員は、利用者ひとり一人の食事摂取量の記録を行い、個々の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを実施しており、誤嚥性肺炎予防の為に口腔の清潔保持に務め、本人の力量に合わせた支援を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた排泄の時間誘導を行い、排泄の習慣化に務め、夜間も排泄パターンを把握してその人に合わせた支援を行っている。	排泄パターンの把握や排泄を訴える利用者も多く、トイレ誘導を行っている。おむつは夜間のみ2人が使用し、ほとんどがリハビリパンツで対応している。おむつからリハビリパンツ、布パンツに改善した事例もあり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便状態を確認し、便秘気味の利用者へは多めの水分補給や腹部のマッサージや軽い運動を試みている。便秘(2~5日)の利用者へは主治医指示の下、下剤使用の対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴サービスを行い、体調に合わせてたり拒否のある日は翌日に行う等、本人のペースに合わせた入浴支援を行っている。	週3回個浴で、時間帯は本人に聞いて対応している。姉妹で一緒に入浴する利用者もいる。重度の利用者は職員2人で介助している。入浴を拒否する人には、日を変えたり、排泄後に入浴を促したりしている。好みのシャンプーを家族に依頼したり、脱衣所に扇風機を置いて、入浴後の快適な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表にて睡眠状況を把握し、夜間不眠の方はなるべく午前中に休息させ、日中本人が休息を希望する場合は尊重し、夜間不眠の方は主治医の指示にて眠剤を使用したり寝やすい環境づくりを心掛けている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内容(作用・用法・容量)を確認し、ひとり一人の処方内容の把握に努め、又処方内容に変更があった場合は職員間で申し送りをし、状態観察を行う様に努めている。	服薬支援マニュアルを作成し、職員に周知を行っている。薬は日勤の職員がセットし、職員が二重チェックを行っている。8月に誤薬事故報告があり、利用者の病院受診や職員ミーティングを行い、事故原因や対応等を話し合っている。	服薬支援マニュアルに則った服薬支援が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴から趣味・特技を見出し、個々に合った対応を心掛け、皆で楽しむDVD鑑賞、カラオケ、個々で楽しむ読書・園芸等を取り入れたり、気分転換のため散歩・ドライブの支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の慣れ親しんだ場所へドライブに出掛けたり、近隣へ散歩や母体病院の売店まで買い物したり、また家族同伴での夕食や散髪等の外出を行っている。	園庭が広く、利用者は日常的に散歩したり、母体病院の売店や近隣のスーパーに買い物に出かけている。倉敷ダムや利用者の自宅近くをドライブすることもある。家族と散髪や夕食したり、ドライブに出かける利用者もいる。重度の利用者は、車イスで園庭を散歩し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば能力に応じたお金の自己管理の方向を考えているが、殆んどの利用者が家族管理でありできる方は、時々職員や家族と買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者がいつも自由に電話がかけられるよう、公衆電話を設置しており、電話の掛け方や会話のやり取りが十分に出来ない方は、職員が支援を行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に利用者の作成した貼り絵を飾ったり、窓から季節の花々を眺めたり、居室の照明や空調設備を整え落ち着ける環境作りに努めている。調理室は常に清潔保持をトイレ・浴室はプライバシーの配慮を心掛けている。	共用の居間で利用者は、イスやソファで思い思いに寛いでいる。利用者の製作した季節の貼り絵が飾られている。近くに知花城址があり、緑が多い。園庭には東屋が設置され、イスを配置し、利用者の散歩コースになっている。園庭で、年1回ガラス工房の作品展示も行われ、利用者の目を楽しませている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて好きなテレビやDVD鑑賞が楽しめ、庭で茶話会を行ったり、またリクライニングチェアで新聞を読んだりと個々にくつろげる居場所づくりを心掛けている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室が8畳の広さがあり、ゆったり過ごせる空間になっており家族と相談して持ち込まれた置物や寝具類を使用したり、家族写真を飾ったりと居心地良く過ごせる工夫を心掛けている。	居室は広く、ベッドやタンス、洗面台が設置されている。タンスが大きく、紙おむつ等が収納され、居室は整理されている。テレビを持ち込んだり、孫の写真や自分で書いた絵を飾ったりして、利用者や家族の好みの部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は利用者が安全で自立した生活が送れるようにバリアフリーになっており廊下・浴室・トイレには手すりが取り付けられ、一人一人の力量を把握し安全で、出来るだけ自立した生活が送れる環境作りをしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム 月桃

作成日 : 平成 30 年 12 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の構成委員として、知見者及び利用者も含まれていることから参加が望まれる。	運営推進委員会開催時に利用者を含め、認知症に関わる職種の方や同業種(グループホーム等)参加協力を求める。	委員会開催時に利用者を参加させる。また沖縄市管内のグループホームに呼びかけ、参加協力を求める。	3ヶ月
2	26	介護計画の長期目標及び短期目標の期間の設定と担当者会議への利用者及び家族等の参加が望まれる。	各利用者の短期目標を3～6カ月、長期目標を1年とし、利用者のケアや状態変化時に家族・利用者の意見を取り入れた介護計画を作成する。	モニタリングを基にケアが変わる場合、常に利用者の思いを取り入れ、家族との連携・情報交換を密にする。	6ヶ月
3	47	服薬支援マニュアルに沿った服薬支援が望まれる。	忙しくても、落ち着いて薬の確認を忘れずに服薬マニュアルに沿い、誤薬が起こらないようにする。	服薬時に名前・表示・日付けを声だし、指差し確認し、他職員とのダブルチェックを行う。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。